

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第80号

H28.1.22発行



**世羅高校、22年ぶり2校目
男女同時優勝の快挙を達成!!**

男子は大会新記録で連覇達成! 単独最多9度目!!
女子はアンカーで4位から逆転! 初優勝!!

1時間07分37秒で初優勝のテープを切るアンカー向井

大会新記録の2時間01分18秒でフィニッシュテープを切るアンカー新迫

最高の輝きを放った「チーム世羅」

第66回男子全国高校駅伝競走大会 / 第27回女子全国高校駅伝競走大会

男子 史上最多となる9度目の優勝! 2時間1分18秒の大会新記録を樹立

写真提供: 阿部写真館



岩本真弥

世羅高校 監督(世羅高出身)

男子について

春先から新迫とカマイシが不調や故障で思うように状態が上がらないまま時間が過ぎていった。吉田と中島が好調だったので、チームがそこに引っ張られた。駅伝シーズンを迎えて新迫の調子上がり、ようやくチームの足並みがそろってきた。

レースを振り返ると、1区の中島が我慢して前につき、流れができた。井上がのびのび走ってうまくつなぎ、カマイシは練習が積めていない中で最低限の失速でカバーできた。吉田も持っている力を十分には発揮できなかったもののよくつなぎ、区間賞を取った山口・植村は力を発揮してよく走った。新迫は区間新を出すという気持ちが出過ぎて突っ込みすぎたが、主将として優勝テープを切り責任を果たした。全般をみると、無難な走りではなく記録を狙った積極的なレースとなった。大会新記録を出すという最低限の目標は達成できた。2時間を切るという目標はちょっと高すぎたかもしれないが、決して達成不可能な記録ではない。

女子について

全国大会の入賞を目標に1年間取り組んできた。去年の後半から向井が急激に力をつけ、小吉川とともに二枚看板をつくることができた。小吉川の安定性と向井の爆発力を買って1区と5区に使うことは早い段階から決めていた。大西は故障がちだったが、全国大会で使える目途が立ったので、目標を絞った。3区は、長尾の経験か1年生の勢いか、最後まで迷った。4区は状態の良さを発揮できなかったものの浅田が粘ってつないだ。4区を終わって30秒以内ならチャンスがあると思ったが、向井がよく逆転した。可能性はあると思っていたが、本当に優勝できるとは思わなかった。

みなさんや地域の支援・応援のおかげで「チーム世羅」として最高の結果を出すことができ、本当に感謝しています。



1区 中島大就 3年

●10km・記録:29.16・区間順位:3位
甲山中(広島県)出身
区間3位という結果には満足していませんが、流れをつくることができました。全国男子駅伝では、1区で区間賞を取ります。



2区 井上広之 3年

●3km・記録:8.15・区間順位:1位
高屋中(広島県)出身
中島がいい位置できてくれたので、自分でトップに立ってカマイシにいつなぎができるようにがんばって走りました。



3区 ポール・カマイシ 3年

●8.1075km・記録:22.51・区間順位:1位
ギチュハ中(ケニア共和国)出身
目標は22分40秒を切ることでした。はじめはしんどくなかったが、6キロでしんどくなりました。上りがきつかったです。チームのために走りました。



4区 吉田圭太 2年

●8.0875km・記録:23.32・区間順位:8位
高屋中(広島県)出身
個人的には悔しいレースでした。先輩たちがいいタイムで走ってくれたので自分もうれしかったです。来年は自分が引っ張ってチームに勢いをつけたいです。



5区 山口和也 3年

●3km・記録:8.38・区間順位:1位
庄原中(広島県)出身
初めての都大路でしたが、とても大きな声援のおかげで走りきり区間賞を取ることができました。チームも優勝でき、よい結果となりました。



6区 植村拓末 3年

●5km・記録:14.25・区間順位:1位
富田中(山口県)出身
前の区間までしっかりつないできてくれたので、自分のペースでしっかり走ることができました。



7区 新迫志希 3年

●5km・記録:14.21・区間順位:2位
志和中(広島県)出身
区間2位は悔しい。まだまだ自分の力不足を感じました。これから大学進学に向けてしっかり練習を積んでいきたいです。

女子 1時間7分37秒で初の栄冠をつかみ取った



1区 小吉川志乃舞 3年

●6km・記録:19.20・区間順位:1位
三原第五中(広島県)出身
目標通り1区で区間賞を取って流れをつくることができました。優勝できてよかったです。



2区 大西響 1年

●4.0975km・記録:13.06・区間順位:7位
広島三和中(広島県)出身
1区で1番できたので先頭のまま渡れられました。最後に離されたけど、楽しく走ることができたからよかったです。



3区 長尾明日香 3年

●3km・記録:9.51・区間順位:2位
長江中(広島県)出身
去年は後半粘れなかったので後半はポイントを置いていました。今年はイメージ通りに走ることができてよかったです。



4区 浅田琴音 3年

●3km・記録:9.54・区間順位:24位
高屋中(広島県)出身
自分として満足のできる走りはできなかったけど、声援のおかげで最後まで走ることができました。



5区 向井優香 2年

●5km・記録:15.26・区間順位:1位
八本松中(広島県)出身
たくさんの声援が力になりました。そのおかげで最後まで走りきり、優勝テープを切ることができました。

男子			
区間	名前	記録	区間順位
1区(10km)	中島大就	29.16	3
2区(3km)	井上広之	8.15	1
3区(8.1075km)	ポール・カマイシ	22.51	1
4区(8.0875km)	吉田圭太	23.32	8
5区(3km)	山口和也	8.38	1
6区(5km)	植村拓末	14.25	1
7区(5km)	新迫志希	14.21	2
計(42.195km)		2.01.18	1

女子			
区間	名前	記録	区間順位
1区(6km)	小吉川志乃舞	19.20	1
2区(4.0975km)	大西響	13.06	7
3区(3km)	長尾明日香	9.51	2
4区(3km)	浅田琴音	9.54	24
5区(5km)	向井優香	15.26	1
計(21.0975km)		1.07.37	1

大会新・高校国際最高

“神の領域”と呼ばれた大会記録を更新! 「チーム世羅」が高校駅伝のレジェンドになった

強さの秘密は、お互いを刺激し合う“目標”の存在

50年を迎えた都大路の歴史に、世羅がまばゆいばかりの輝きを残した。昨年の全国高校駅伝。男子は仙台育英の持つ「神の領域」と呼ばれた大会記録を更新し、史上最多9度目のVで同校64年ぶりの連覇を達成。女子は初の栄冠で、史上2校目となる男女同時優勝の快挙を成し遂げた。「他のチームに悪い気はしませんね。本当に選手に恵まれた。選手を褒めてやってください」岩本真監督も興奮を抑えきれなかった。

大会前、岩本監督は『男子はハラハラ、女子はわくわく』と心境を語った。男子は大会史上4位の記録で優勝した前回大会のメンバーが5人残る絶対的な優勝候補。しかし、その歩みは順風満帆とはいかなかった。

エースの新迫志希主将が原因不明の体調不良に苦しんだ。インターハイ

5000mは予選で途中棄権、和歌山国体少年男子A5000mでは16位と、トラックシーズン通して精彩を欠いた。ポール・カマイシも4月の織田記念5000mで13分21秒52の好タイムを記録したものの、その後は右脚の故障に苦しんだ。「まさに谷あり谷あり」(岩本監督)のシーズンだった。

それでも、そこは「駅伝の世羅」。11月の県大会では、カマイシを欠く布陣で大会記録を48秒も更新する2時間3分26秒で優勝。「中島(大就)、吉田(圭太)がチームを引っ張ってくれて、自分たちもという気持ちになった」と2区の井上広之。新迫主将も復調し、「神の領域」へ挑む態勢は整った。

一方、女子は小吉川志乃舞主将、向井優香のダブルエースを中心に、着実に力をつけてきた。6月の中国高校選手権(浜山)3000mで、向井が自己記録を10秒以上短縮する9分

4秒81で優勝。インターハイ3000mでは、向井が3位、小吉川が4位とダブル入賞を果たした。駅伝シーズンに入っても、その勢いは衰えず、県大会は1時間8分57秒の大会新。「初入賞ではなく、初優勝」(小吉川)。その期待感は日に日に高まっていた。

12月20日。快挙の1日は、女子の好走から始まる。「区間賞を取って、チームの流れに乗せる」。1区小吉川がその意気込みを現実にした。残り1kmから仕掛ける。西脇工とのスパート合戦を制し、トップで2区の1年大西響にたすきを

女子優勝の興奮と感動が冷めやらぬ12時30分。男子が「神の領域」へ向けスタートを切った。1区中島大就が区間3位と好発進。2区井上広之が1・2km地点で首位に浮上。3区のポール・カマイシが2位仙台育英に1分の差をつけた。4区吉田以降、注目は勝負ではなく、その記録に絞られた。

4区を終えて、仙台育英の記録から遅れること16秒。しかし、5区山口和也、6区植村拓末が区間1位の快走を見せ、アンカーの新迫に6秒の貯金をつかってつないだ。新迫は左腕に書いたメンバーの名前に力をもらいながら、栄光のゴールへ向かう。「競技場に入り、記録掲示板を見た瞬間に、新記録を確信した」(新迫)。仙台育英の大会記録を14秒更新する2時間1分18秒。競技場の歓声はピークに達した。

岩本監督が就任してからの12年で、男女6度の優勝。管理ではなく選手の自主性を重んじた指導で、黄金時代を築き上げた。同学年、先輩後輩、男女…。選手は互いに刺激を合いながら、自分で自らの可能性を広げていく。やらせるのではなく、選手のやる気を引き出す。「そのさじ加減は、彼しかできないものでしょう」世羅高の先輩で中国電力の坂口泰監督は説明した。

西京極陸上競技場のスタンドで歓声を上げたのは、物心両面でチームをサポートし続けてきた世羅町の応援団だった。『世羅高は我々の誇り』と集まった人々は拍手を送る。岩本監督と選手は「みなさんの支援がなかったら優勝できなかった。恩返しできてうれしい」と声をそろえた。駅伝のまち・世羅。長い年月の間に築かれた深く、熱く、そして固い絆こそが、高校陸上界に誇る最高の勲章である。

(Ko)



渡した。

大西は2位でたすきを3区の3年長尾明日香へ。「(優勝を考えれば)ポイントは3区。どれだけ踏ん張れるか」と岩本監督が明言した勝負どころ。指揮官の不安は杞憂に終わった。長尾は先頭をしっかりと追走。区間2位のタイムでたすきを4区へつなぐ。4区浅田琴音で4位まで後退。先頭と35秒差で5区向井がスタートした。「30秒なら逆転できる」岩本監督の想定から5秒遅れたが、向井にはこの差は大きな問題ではなかった。

「最初の1kmは抑えて、そこから一気にいく」じわじわとその差を縮め、先頭の常磐を残り1・3km地点で逆転。1時間7分37秒で初Vのゴールテープを切った。「男子に刺激を受けながら、成長してきた。もしかしたらと思っていたけど、出来過ぎ」と指揮官。高校駅伝界に、「女子も世羅」を高らかに宣言した。

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成 協力企業

- 株式会社サタケ
- 広島駅弁当株式会社
- 株式会社広島銀行
- 広島ガス株式会社

- 広島電鉄株式会社
- 学校法人石田学園
- 株式会社中電工
- 株式会社もみじ銀行

- 広島総合警備保障株式会社
- 有限会社ニシヒロ
- アシックス販売株式会社
- 有限会社道後山高原サービス

- 有限会社BTM
- 株式会社体育社
- 中国電力株式会社
- 大塚製薬株式会社

(順不同)

編集後記

京都開催50周年を記念して、59チームが参加して行われた今回の全国高校駅伝は、世羅高校男女同時優勝・男子大会新記録という広島県にとっては最高の結果となった。

忙しい合間を縫って気持ちよく取材に応じてくれた選手たちは、どこにでもいる普通の高校生と何ら変わらなかった。監督も穏やかな口調で的確に指示を出す。「頂点に立つ」という高く明確な目標をもち、それに向けて日常の生活を含めて努力してきたからこそ、成し遂げられた今回の快挙である。

世羅高校は、過疎化に伴って学校全体の生徒数が減少し、部員の確保もままならないという。そういった逆境にある学校だからこそ、今回の栄冠が輝きを増していると感じた。追われる立場となっても、世羅高校のスタンスは変わらない。重圧に負けない、普段通りの競技生活・高校生活を続け、これからも結果を出し続けてくれるに違いない。

今回の取材では、監督・選手はもちろんのこと、小山部長、堀・大工谷両コーチに大変お世話になりました。ありがとうございました。(K)